

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム(2016年版) 名古屋大学建築環境総合性能評価システム(2016年版) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知学院大学名城公園キャンパス	階数	地上10F
建設地	名古屋市北区名城三丁目1番1号	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	平均居住人員	2,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年6月1日
敷地面積	31,290 m ²	作成者	大西 一彦
建築面積	3,275 m ²	確認日	
延床面積	19,513 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE3.3 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 76% ③上記+②以外の 76% ④上記+ 76%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q のスコア = 3.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.8</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 4.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 4.1</p>
<p>LR のスコア = 4.1</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 4.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.7</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>大学施設における低炭素型モデルキャンパスを目指し、環境配慮型建築と自然・未利用エネルギーを積極的に利用。さらに災害緊急避難所設置に伴い防災性と省CO₂の両立、学生教職員、地域住民に対するこれらのメッセージ発信、学識者、設計者、施工者、エネルギー事業者など関係者一体となった計画・検証・技術の展開</p>		<p>その他 なし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>Low-e ガラス、誘引放射空調、メッシュ構造のブラインドによる名城公園の視界</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>OAフロアH=100mm、階高4.1m、高層棟のエスカレーターの設置、係数1.25の耐震性能、高層棟無柱空間によるフレキシビリティの向上、熱源の多重化(電気・ガス)</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>オープンスペースの確保、緑視量の確保、名城公園からの涼風を活用する建物配置、敷地緑化と公開空地の整備、透水性平板</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>エネルギー監視システムの積極的利用、昼光利用による照明自動調光制御、共用部での人感センサー点滅制御、空調の共用部排気によるエネルギーのカスケード利用、水平庇による日射制御、高効率機器、高効率照明の採用、太陽光発電</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>雨水利用と節水器具採用、井水利用</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>主要機器を低騒音型として計画し、防音壁を設置、屋上緑化、駐車・駐輪スペースの確保、近隣への涼風ルートを確認</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される